Course number	U-LAS01 10001 LJ38		
Course title (and course title in English)	日本史Ⅰ Japanese History I	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Institute for Liberal Arts and Sciences Professor,YOSHIE TAKASHI
Group	Humanities and Social Sciences	Field(Classification)	History and Civilization(Foundations)
Language of instruction	Japanese	Old group	Group A
Number of credits	2		
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)
Year/semesters	2024・First semester		
Days and periods	Mon.3	Target year	All students
Eligible students	For all majors		

[Overview and purpose of the course]

日本古代政治史の研究―摂関政治の確立―

日本における古代国家の変容を政治史という側面から把握し、古代日本の特質について理解することを目的とする。今期は、摂政・関白による政治が確立する１０世紀前葉から後葉にかけての政治動向を取り上げ、先行学説を紹介するとともに批判的に検証を行う。こうした作業を通じて、国家の様相や変遷を客観的に捉える視座を養うことを目指す。

[Course objectives]

日本古代史における正確で幅広い知識を獲得するとともに、これまでの研究の流れを自分の力で整理し、それらを客観的・批判的に把握して、自らの歴史像を組み立てるための技術を習得する。

[Course schedule and contents)]

７世紀後葉に開始された律令政治は、８世紀後葉から変質をはじめ、長い過渡期を経て１０世紀後葉に摂関政治へと転成した。摂関政治は律令制的な外皮をまといながらも、中世的な側面を多く含んでおり、前近代の基礎は、摂関政治の時代に築かれたと言って間違いはない。今期は、摂政・関白が常に置かれるようになり、摂関政治の確立するといってよい１０世紀前葉から後葉にかけての政治史を考察する。まずは摂政と関白との関係性が整理され、摂関政治が確立していく様子を概観する。次いで、内裏の焼亡や財政制度の再編、社会秩序の変容といった観点から、摂関政治の背景として存在する社会の変質について考察する。最後に、天皇の外戚と摂政・関白との関係がどのように変化していったのかを論じ、摂関政治の特質について検討する。

第１回　イントロダクション―平安時代前期の政治史概観―
第２回　摂関政治の確立過程（１）
第３回　摂関政治の確立過程（２）
第４回　内裏の焼亡（１）
第５回　内裏の焼亡（２）
第６回　財政制度の再編（１）
第７回　財政制度の再編（２）
第８回　社会秩序の変容―皇朝十二銭の終焉を中心に―（１）
第９回　社会秩序の変容―皇朝十二銭の終焉を中心に―（２）
第１０回　安和の変の歴史的位置（１）
第１１回　安和の変の歴史的位置（２）
第１２回　花山天皇の出家（１）

Continue to 日本史Ⅰ(2)↓↓↓

日本史Ⅰ(2)

第１３回　花山天皇の出家（２）
第１４回　総　括
第１５回　期末試験／学習到達度の評価
第１６回　フィードバック

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

期末試験（筆記）にて成績評価する。

[Textbooks]

Not used
授業中にプリントを配布する。

[References, etc.]

（References, etc.）
Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

授業の進行はシラバスに記載の通りであるので、授業の進行を確認の上、各回の授業内容を想定し、予習をすることが望ましい。

[Other information (office hours, etc.)]

授業はPowerPointを用いて講義形式で行う。